

中国保険業における WTO 加盟の影響—評価と課題—

慶應義塾大学 塔林凶雅

1. 中国保険業の現状

中国は1978年の改革開放政策の施行後、安定的かつ持続的な経済成長を遂げ、2010年に日本を抜き世界2位の経済大国となった。また、都市化の進行と国民所得の増加に伴い、中国保険業は1980年の業務再開以来、高成長している。2010年に世界6位の保険市場にまで規模が拡大し、最も潜在成長性の高い市場として世界の注目を集めている。それは、市場経済システムに適応した現代保険制度の構築と保険産業の保護育成政策の施行により中国国内の保険経営環境が整備されつつあり、さらに市場開放をすることによって、先進保険技術および保険ノウハウを導入することが実現されたことの効果が大きかったからである。

2. 中国保険業における市場開放とWTO加盟プロセス

2001年12月に実現されたWTOへの正式加盟は、中国保険市場開放の本格的な始まりである。これは、中国経済の市場化とグローバル化を加速させる重要なプロセスであり、保険市場において、WTO加盟時に上海など5都市だけだった開放地区は、2003年12月に北京、成都など10大都市に拡大した。さらに、2006年12月に地理的制限が撤廃された。外資系保険会社の保険経営の安定性と健全性が中国市場参入の前提となっており、グローバルな事業展開をしている世界の大手企業にのみ門戸を開く姿勢が見受けられる。

WTO加盟に伴い、外資系保険会社の中国市場参入が加速した。その中国保険市場にもたらした影響は、まず、外資系保険会社の市場参入による中国資本の国内保険会社に対する競争圧力である。次に、外資系保険会社の先進的な保険ノウハウの移転である。未熟な中国保険業にとって短期間で先進国の保険技術を習得するチャンスが与えられた。第3に、外資系保険会社の市場参入に伴って、消費者

の保険意識の向上と保険選択肢の多様化が促進された。第4に、外資系保険会社の市場参入が保険監督行政のあり方にも影響を与えている。

3. 中国保険業におけるWTO加盟と市場構造の変化

ここでは、WTO加盟がもたらした影響について、中国保険市場の構造変化を検証するため、統計的分析をする。まずは、WTO加盟前後の比較研究をする。大手3社の市場占有率が大幅に縮小するとともに、外資系保険会社の市場シェアの拡大が小幅にとどまっている。それと対照的に、中国資本の中堅保険会社が顕著な市場拡大を実現している。また、中国の地域間経済格差により、保険市場における地域性が大きく、先進地域における外資系保険会社と中国大手3社間の競争激化および後発地域における大手3社と中小保険会社間の競争激化が進んでいる。さらに、市場開放に伴う規制緩和が進んだ結果、料率競争と保険商品および販売チャネルの多様化が進み、消費者の保険アクセスの利便性が高まっている。保険会社の経営が複雑化しており、商品特化、チャネル特化、地域特化など独自のマーケット戦略がみられる。

4. 中国保険業におけるWTO加盟の評価と課題

以上の分析をふまえ、本報告ではWTO加盟が中国保険業にどのような影響をもたらしたかを解明し、その意義および課題について検討することを目的とする。中国は積極的にWTO加盟を進めつつ、自国保険業の保護育成を前提とした市場開放政策をとってきた。WTO加盟の意義は、①市場開放による競争促進②保険自由競争による消費者利益の増大、③保険経営の多様化と複雑化、④販売チャネルの多様化と保険商品の多種多様化、⑤消費者の保険意識の高まりなど、中国保険業の進化を促進したことにある。しかし一方で、中国保険市場は未熟な市場であり、保険の普及ならびに法的整備の強化など、様々な課題を抱えている。このように、本報告では中国の特殊事情をふまえながら、保険市場の開放をめぐる経緯とそれに伴う保険自由化の変化について考察する。そして、中国保険業におけるWTO加盟に関する状況を概観することを通して、その影響および中国保険業の課題について検討していきたい。